

個人9

受 令和 6 年 6 月 3 日
付 午前 午後 9 時 24 分

一般質問（代表・個人） 通告書

令和 6 年 6 月 3 日

尾張旭市議会議長 殿

氏 名 _____ 丸山幸子 _____

尾張旭市議会会議規則第 50 条第 1 項の規定により 6 月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 _____ 4 _____ 件

2 質問方法

	1 回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項（大項目）ごとの一問一答
<input checked="" type="radio"/>	1 回目から 質問事項（大項目）ごとの一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



質問事項 No. <u>1-1</u>	防災・減災対策について
要 旨	<p>本年1月1日に発災しました能登半島地震から、5か月が経過いたしました。被災地の様子も、発災直後からは復興に向けて進んでいますが、被災者が元の生活に戻り、被災された市町が元に戻るには、まだまだ時間が掛かると感じます。こうして大きな災害が起きる度に、課題とされることが指摘され、私たちはより、防災・減災に対して学び、知識を深め、対策を講じていかなければなりません。この度の震災から見えてくる課題の中から、本市の防災・減災対策について伺います。</p> <p>(1) 災害時物資供給マニュアル策定について</p> <p>令和2年から国が開発した、物資調達・輸送調整等支援システムの運用が開始され、物資の支援要請から輸送状況の把握、在庫の管理が出来るようになりました。電源や回線が寸断された場合には、従来のアナログな支援要請が必要となるため、システムと併用しながら運用できる実践的なマニュアルの策定調整を進めると令和4年12月議会でご答弁いただいておりますが、その後の策定状況について伺います。</p> <p>(2) 協定先からの救援物資供給について</p> <p>災害時の物資などの供給については、様々な企業などと協定を結んでいますが、災害が起きたとき、実際どのように連携し物資を受け入れるのかを伺います。</p> <p>(3) 在宅避難、車中泊避難などの個別対応について</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質 問 事 項 No. <u>1 - 2</u>	防災・減災対策について
	<p>(4) 支援物資のマッチングについて</p> <p>災害発生時、必要な時に必要なものを確実に届けるためには、マッチングの仕組みがあれば無駄なく行えます。マッチングのシステム導入について伺います。</p> <p>(5) 車中泊訓練について</p> <p>南海トラフ地震など大規模地震の発生に備え、車中泊避難を希望する避難者の受入れ訓練を実施することにより、車中泊避難を行う際の課題の把握や受入れ体制の確認を行うことが出来ます。実施についての見解を伺います。</p> <p>(6) 避難所としての中学校体育館の運用について</p> <p>今年度、災害時に避難所となる中学校へのエアコン設置の費用が計上されました。来年度、工事が行われる予定ではありますが、避難所としての運営方法などが明確になっておりません。中学校体育館は、どの地域の市民が避難し、誰が主体となり運営するのかなど、避難所としての運用について伺います。</p> <p>(7) 災害支援金のキャッシュレス決済導入について</p> <p>本市と輪島市は災害時の協定を締結していることから、本市独自の災害支援金を多くの方からお寄せいただきました。一方で、現金を持ち歩かない方からキャッシュレス決済があれば……。とのお声もいただきました。今後、災害が発生し、市役所内に募金箱を設置する場合のキャッシュレス決済の導入について伺います。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>3-2</u>	不登校対策について
要 旨	<p>(4) 心の小さなSOSの早期発見について</p> <p>COCOLOプランには、アプリ等による、困難を抱える児童生徒の支援や専門家の支援を活用した心や体調の変化の早期発見・早期支援を目的とした「心の健康観察」の推進とあります。具体的な取組について伺います。</p> <p>(5) 教育メタバースの活用について</p> <p>COCOLOプランの取組の中に、不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにすることを目指し「不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」とあります。</p> <p>家から出ることのできない不登校児童生徒が、学びにアクセスするためには最近注目されていますメタバースの活用が有効であると考えます。</p> <p>メタバースは匿名で利用でき、アバターを使って気軽に参加できる仮想空間であり、不登校の子どもたちにとって学ぶ場や居場所として適しています。不登校の子どもたちの約6割は、家から出ないひきこもりの状態となっています。こうした現状の中、タブレットを活用した取組は、不登校の児童生徒に新たな選択肢となり、孤立感を軽減するといった効果も期待できます。</p> <p>この取組は全国でも広がりを見せており、県内でも名古屋市や春日井市、大府市でも始まっています。本市においての導入のお考えをお聞きします。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>4</u>	「コドマモ」アプリの普及促進について
要 旨	<p>「コドマモ」は、子どもをスマホで起きる犯罪や事故から守る無料アプリであります。わいせつな画像をスマホで撮影・保存した際、AIが撮影データを判別し、画像を削除するよう通知が表示されるとともに保護者に通知されます。愛知県警の公式ホームページでも紹介されており、子どものわいせつな自撮りが拡散されるのを防ぐために作られました。</p> <p>昨年の7月から9月までの3か月間、長久手市の中学校において、全ての生徒と保護者を対象にコドマモを試用するモデル事業が行われました。実施後のアンケート結果によりますと、LINEやネット上で「怖い思いや嫌な思いをした」経験のある中学生が121名（8%）おり、「自分の裸や下着姿の写真を送るように言われた」中学生は27名、（1.8%）いる実態が判明しました。そして、怖い思いや嫌な思いをしたことがあると答えた中学生のうち「コドマモ」を利用した3人に2人が、「コドマモはわいせつ画像の送受信に関する犯罪に巻き込まれないことに役立つと思うか？」の問いに「役に立つと思う」と回答しています。</p> <p>子どもが犯罪に巻き込まれるのを防ぐため、「コドマモ」アプリの周知、普及促進に努めていただきたいと思いますがお考えを伺います。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。